

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校日経ビジネス
設置者名	学校法人永志学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	キャリアビジネス科	夜・通信	1,139	160	
	メディカルスタッフビジネス科	夜・通信	1,716	160	
	エアラインビジネス科	夜・通信	549	160	
	国際リゾート観光科	夜・通信	630	160	
文化・教養専門課程	公務員ビジネス科	夜・通信	518	160	
	公務員速成科	夜・通信	224	80	
	国際英米学科	夜・通信	1,730	160	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.n-nikkei.ac.jp/info/disclosure_nikkei.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校日経ビジネス
設置者名	学校法人永志学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.n-nikkei.ac.jp/info/disclosure_nikkei.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	税理士法人 砂川会計 パートナーズ代表社員 砂川 恵喜	令和4年4 月1日～令 和7年3月 31日	学校法人の運営に 関する助言
非常勤	やんばるエコツアーズ ム研究所代表 中根忍	令和4年5 月26日～ 令和7年3 月31日	学校法人の運営に 関する助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校日経ビジネス
設置者名	学校法人永志学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。																											
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)																											
<p>授業計画書の作成過程について</p> <p>(1) 1月中旬までに各学科は次年度のカリキュラムを作成する。</p> <p>(2) 2月に実施する教育課程編成委員会で審議を図り、委員の意見やアドバイスを参考にする。</p> <p>(3) 2月末までにカリキュラムを最終決定していく。</p> <p>(4) 3月の中旬までにシラバスの作成をし、4月初旬に学生に公表する。</p> <p>(5) ホームページ等での公表は8月中に行う。</p>																											
授業計画書の公表方法	https://www.nikkei.ac.jp/info/disclosure_nikkei.html																										
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。																											
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)																											
<p>※成績評価</p> <p>(1) 成績評価は履修科目ごとに、評価する。</p> <p>(2) 成績評価は、単位認定テスト、確認テスト、出席率、授業態度、その他課題等によってなされる。</p> <p>(3) 評価…成績評価は、A・B・C・D・Eの5段階とする。</p> <p>(4) 評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内 容</th> <th>点 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>科目の理解度と授業態度の優秀な者</td> <td>100 ~ 85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>科目の理解度と授業態度の良好な者</td> <td>84 ~ 70</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>科目の理解度と授業態度のやや劣る者</td> <td>69 ~ 50</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>科目の理解度と授業態度が劣る者</td> <td>49 ~ 30</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>単位を認めない者</td> <td>29 ~ 0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 評価内容 (100点満点として)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(1) 試験</th> <th>(2) 出席</th> <th>(3) 授業態度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70点</td> <td>20点</td> <td>10点</td> <td>100点</td> </tr> </tbody> </table> <p>①試験点については、筆記、実技試験、レポート、製作物等の評価点数に70%乗ずる。</p> <p>②出席点について</p> <p>③授業態度については、各担当の講師の評価とする。</p>		評価	内 容	点 数	A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85	B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70	C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50	D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30	E	単位を認めない者	29 ~ 0	(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計	70点	20点	10点	100点
評価	内 容	点 数																									
A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85																									
B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70																									
C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50																									
D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30																									
E	単位を認めない者	29 ~ 0																									
(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計																								
70点	20点	10点	100点																								

(6) 成績評価表

前期、中期、後期の評価表を作成する。

(7) 単位認定試験

- ・ 全科目、単位認定試験を実施する。
- ・ 年間行事日程表で示す単位認定試験期間以前に科目が終了する場合は、終了する時点で科目単位認定試験を実施する。(対象学生は必ず受けなくてはならない)
- ・ 2期以上に渡る科目は、各期で単位認定を行い、その都度前の期で行った単位評価と整合を行う。
- ・ 指定された単位認定試験を受験しなかった場合は、理由を問わず追試対象とする。
(但し、就職に関する試験・面接日と重なった場合は、その限りではない。)

(8) 単位認定追試験

- ・ 追試対象者の点数は 40 点未満とし、追試料金が発生する。
- ・ 追試は 2 回までとし、それでも 40 点未満であれば、レポート提出などで最終的な成績を出す。
- ・ 各科目の出席率が 85% 未満の者は単位認定試験を受けられない。よって追試対象者となる。
ただし、科目時間数 (30 時間未満) によっては、出席率 80% 未満の者が対象となる場合がある。
- ・ 追試手続きは、単位認定試験申込書と受験料を添えて総務に各自で申請する。
- ・ 追試及び再追試の試験日は、各科目担当者が該当学生に日程を指示し、総務で申請した学生のみ受験することができる。よって、無申請の学生は、自動的に単位未取得となる。

(9) 再試験について

- ・ 追試とは別に基準点を設けて、再試験を設定することが出来る。再試験料金は発生しない。
- ・ 再試験は、その学生に対して、もっと勉強してほしいという気持ちから行うものである。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- (1) 学生の履修科目の成績評価を表 I で点数化し、全科目の合計の平均点を算出する (100 点満点で点数化)
- (2) 平均点をもとに成績分布図を作成する。

<表 I >

評価	点数
A	100
B	80
C	60
D	40
E	0

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.nikkei.ac.jp/info/disclosure_nikkei.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

◆ディプロマ・ポリシー (卒業認定・専門士称号に関する方針)

本校においては、「国際化、高度情報化、観光リゾート化」など、社会環境や情勢の急激なる変化に対応できる人材を幅広い知識はもとより、柔軟な思考力や創造性などを育成する実践的な職業教育機関であり、教育課程ならびに学修目標を達成した者には以下の資質を有するとして、卒業の認定ならびに専門士 (2年課程) を付与する。

1. 創造性 …… 既成概念にとらわれず、常に向上心をもった企業人として、自ら考え、行動できる人。
2. 明朗性 …… 明るく朗らか企業人として、常に建設的な心構えを持って、行動する人。
3. 誠実性 …… 秩序を尊重し、誰からも信頼される企業人として、素直に行動していく人。

<卒業条件>

(1) 履修時間

本校在学期間中に1,700時間以上を履修しなければならない。よって1,700時間未満の者は卒業できない。(1年次卒業生は800時間以上の履修)

(2) 卒業単位の取得

本校在籍期間中に62単位以上を取得しなくてはならない。よって62単位未満の者は、卒業できない。(1年次卒業生は32単位以上の取得)

(3) 卒業基準検定の取得

卒業年次の2月末日までに基準検定を取得(合否結果必要)しなければならない。また、基準検定未取得者は卒業延期とする。ただし、基準検定取得時点(1年以内)で卒業を認める。

(4) 卒業論文の提出

各科並びにコースによって異なるが、原則として学校指定の形式で4000文字以上を作成し、提出すること。

(5) 授業料等の納付義務

授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.n-nikkei.ac.jp/info/disclosure_nikkei.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校日経ビジネス
設置者名	学校法人永志学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nikkei.ac.jp/info/disclosure_nikkei.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.nikkei.ac.jp/info/disclosure_nikkei.html
財産目録	-
事業報告書	-
監事による監査報告（書）	-

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	キャリアビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,134 単位時間/単位	663 単位時間 /単位	1,447 単位時間 /単位	24 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,134 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		66人	0人	5人	0人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書の作成過程について （1）1月中旬までに各学科は次年度のカリキュラムを作成する。 （2）2月に実施するキャリアビジネス科の教育課程編成委員会で審議を図り、委員の意見やアドバイスを参考にする。 （3）2月末までにカリキュラムを最終決定していく。 （4）3月の中旬までにシラバスの作成をし、4月初旬に学生に公表する。 （5）ホームページ等での公表は8月中に行う。
成績評価の基準・方法
（概要） ※成績評価 （1）成績評価は履修科目ごとに、評価する。 （2）成績評価は、単位認定テスト、確認テスト、出席率、授業態度、その他課題等によってなされる。

(3) 評価…成績評価は、A・B・C・D・Eの5段階とする。

(4) 評価基準

評価	内 容	点 数
A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85
B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70
C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50
D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30
E	単位を認めない者	29 ~ 0

(5) 評価内容 (100 点満点として)

(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計
70点	20点	10点	100点

①試験点については、筆記、実技試験、レポート、製作物等の評価点数に70%乗ずる。

②出席点については、各科目の出席率に20%を乗ずる。

③授業態度については、各担当の講師の評価点数に10%を乗ずる。

(6) 成績評価表

前期、中期、後期の評価表を作成する。

(7) 単位認定試験

- ・全科目、単位認定試験を実施する。
- ・年間行事日程表で示す単位認定試験期間以前に科目が終了する場合は、終了する時点で科目単位認定試験を実施する。(対象学生は必ず受けなくてはならない)
- ・2期以上に渡る科目は、各期で単位認定を行い、その都度前の期で行った単位評価と整合を行う。
- ・指定された単位認定試験を受験しなかった場合は、理由を問わず追試対象とする。
(但し、就職に関する試験・面接日と重なった場合は、その限りではない。)

(8) 単位認定追試験

- ・追試対象者の点数は40点未満とし、追試料金が発生する。
- ・追試は2回までとし、それでも40点未満であれば、レポート提出などで最終的な成績を出す。
- ・各科目の出席率が85%未満の者は単位認定試験を受けられない。よって追試対象者となる。
ただし、科目時間数(30時間未満)によっては、出席率80%未満の者が対象となる場合がある。
- ・追試手続きは、単位認定試験申込書と受験料を添えて総務に各自で申請する。
- ・追試及び再追試の試験日は、各科目担当者が該当学生に日程を指示し、総務で申請した学生のみ受験することができる。よって、無申請の学生は、自動的に単位未取得となる。

(9) 再試験について

- ・追試とは別に基準点を設けて、再試験を設定することが出来る。再試験料金は発生しない。
- ・再試験は、その学生に対して、もっと勉強してほしいという気持ちから行うものである。

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p><進級条件></p> <p>(1) 出席率85%以上(学校行事など含む) 在籍中の出席率を集計するが、1年間の必要出席日数の85%以上が得られない者は退学対象とし、進級判定会議で決定する。</p> <p>(2) 授業料等の納付義務 授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。</p> <p><卒業条件></p> <p>(1) 履修時間 本校在学期間中に1,700時間以上を履修しなければならない。よって1,700時間未満の者は卒業できない。(1年次卒業生は800時間以上の履修)</p> <p>(2) 卒業単位の取得 本校在籍期間中に62単位以上を取得しなくてはならない。よって62単位未満の者は、卒業できない。(1年次卒業生は32単位以上の取得)</p> <p>(3) 卒業基準検定の取得 卒業年次の2月末日までに基準検定を取得(合否結果必要)しなければならない。また、基準検定未取得者は卒業延期とする。ただし、基準検定取得時点(1年以内)で卒業を認める。</p> <p>(4) 卒業論文の提出 各科並びにコースによって異なるが、原則として学校指定の形式で4000文字以上を作成し、提出すること。</p> <p>(5) 授業料等の納付義務 授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正規授業以外に補講授業として状況に合わせ組込む。 ・ 放課後、教室を自習室として開放する。 ・ パソコン室は、授業以外は常に開放している。 ・ 担任制を導入しており、担任教員による定期的なガイダンスを行う。 ・ 学校カウンセラーによる学習面・生活面への相談体制。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	2人 (6.6%)	26人 (86.6%)	2人 (6.6%)
(主な就職、業界等) 経理事務、税理士補助、営業、販売、一般事務等			

(就職指導内容) ・面接指導 ・SPI 対策 ・インターンシップ ・就職支援授業
(主な学修成果 (資格・検定等)) ・日商簿記 2 級 (30 人合格) ・全経簿記 1 級 (16 人合格) ・全経所得税 2 級 27 人合格) ・建設業経理士 2 級 (17 名合格)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66 人	6 人	9%
(中途退学の主な理由) ・進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・保護者懇談会 ・個別ガイダンス ・三者面談 ・スクールカウンセリング ・卒業生講話 ・学科合同イベント ・クラスレクレーション大会 ・県外・離島出身者応援団		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	メディカルスタッフ ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 2,135 単位時間／単位	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年			534 単位時間 /単位	1,147 単位時間 /単位	184 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,135 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		18人	0人	3人	0人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																													
<p>(概要)</p> <p>授業計画書の作成過程について</p> <p>(1) 1月中旬までに各学科は次年度のカリキュラムを作成する。</p> <p>(2) 2月に実施するメディカルスタッフビジネス科の教育課程編成委員会で審議を図り、委員の意見やアドバイスを参考にする。</p> <p>(3) 2月末までにカリキュラムを最終決定していく。</p> <p>(4) 3月の中旬までにシラバスの作成をし、4月初旬に学生に公表する。</p> <p>(5) ホームページ等での公表は8月中に行う。</p>																													
成績評価の基準・方法																													
<p>(概要)</p> <p>※成績評価</p> <p>(1) 成績評価は履修科目ごとに、評価する。</p> <p>(2) 成績評価は、単位認定テスト、確認テスト、出席率、授業態度、その他課題等によってなされる。</p> <p>(3) 評価…成績評価は、A・B・C・D・Eの5段階とする。</p> <p>(4) 評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内 容</th> <th>点 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>科目の理解度と授業態度の優秀な者</td> <td>100 ～ 85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>科目の理解度と授業態度の良好な者</td> <td>84 ～ 70</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>科目の理解度と授業態度のやや劣る者</td> <td>69 ～ 50</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>科目の理解度と授業態度が劣る者</td> <td>49 ～ 30</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>単位を認めない者</td> <td>29 ～ 0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 評価内容（100点満点として）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(1) 試験</th> <th>(2) 出席</th> <th>(3) 授業態度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70点</td> <td>20点</td> <td>10点</td> <td>100点</td> </tr> </tbody> </table> <p>①試験点については、筆記、実技試験、レポート、製作物等の評価点数に70%乗ずる。</p> <p>②出席点については、各科目の出席率に20%を乗ずる。</p> <p>③授業態度については、各担当の講師の評価点数に10%を乗ずる。</p> <p>(6) 成績評価表 前期、中期、後期の評価表を作成する。</p>				評価	内 容	点 数	A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ～ 85	B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ～ 70	C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ～ 50	D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ～ 30	E	単位を認めない者	29 ～ 0	(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計	70点	20点	10点	100点
評価	内 容	点 数																											
A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ～ 85																											
B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ～ 70																											
C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ～ 50																											
D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ～ 30																											
E	単位を認めない者	29 ～ 0																											
(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計																										
70点	20点	10点	100点																										

(7) 単位認定試験

- ・全科目、単位認定試験を実施する。
- ・年間行事日程表で示す単位認定試験期間以前に科目が終了する場合は、終了する時点で科目単位認定試験を実施する。（対象学生は必ず受けなくてはならない）
- ・2期以上に渡る科目は、各期で単位認定を行い、その都度前の期で行った単位評価と整合を行う。
- ・指定された単位認定試験を受験しなかった場合は、理由を問わず追試対象とする。
(但し、就職に関する試験・面接日と重なった場合は、その限りではない。)

(8) 単位認定追試験

- ・追試対象者の点数は40点未満とし、追試料金が発生する。
- ・追試は2回までとし、それでも40点未満であれば、レポート提出などで最終的な成績を出す。
- ・各科目の出席率が85%未満の者は単位認定試験を受けられない。よって追試対象者となる。
ただし、科目時間数(30時間未満)によっては、出席率80%未満の者が対象となる場合がある。
- ・追試手続きは、単位認定試験申込書と受験料を添えて総務に各自で申請する。
- ・追試及び再追試の試験日は、各科目担当者が該当学生に日程を指示し、総務で申請した学生のみ受験することができる。よって、無申請の学生は、自動的に単位未取得となる。

(9) 再試験について

- ・追試とは別に基準点を設けて、再試験を設定することが出来る。再試験料金は発生しない。
- ・再試験は、その学生に対して、もっと勉強してほしいという気持ちから行うものである。

卒業・進級の認定基準

(概要)

<進級条件>

- (1) 出席率85%以上(学校行事など含む)
在籍中の出席率を集計するが、1年間の必要出席日数の85%以上が得られない者は退学対象とし、進級判定会議で決定する。
- (2) 授業料等の納付義務
授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。

<卒業条件>

- (2) 履修時間
本校在学期間中に1,700時間以上を履修しなければならない。よって1,700時間未満の者は卒業できない。(1年次卒業生は800時間以上の履修)
- (2) 卒業単位の取得
本校在籍期間中に62単位以上を取得しなくてはならない。よって62単位未満の者は、卒業できない。(1年次卒業生は32単位以上の取得)

<p>(3) 卒業基準検定の取得 卒業年次の2月末日までに基準検定を取得（合否結果必要）しなければならない。また、基準検定未取得者は卒業延期とする。ただし、基準検定取得時点（1年以内）で卒業を認める。</p> <p>(4) 卒業論文の提出 各科並びにコースによって異なるが、原則として学校指定の形式で4000文字以上を作成し、提出すること。</p> <p>(5) 授業料等の納付義務 授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。</p>
<p>学修支援等 (概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正規授業以外に補講授業として状況に合わせて組込む。 ・ 放課後、教室を自習室として開放する。 ・ パソコン室は、授業以外は常に開放している。 ・ 担任制を導入しており、担任教員による定期的なガイダンスを行う。 ・ 学校カウンセラーによる学習面・生活面への相談体制。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	1人 (5.8%)	16人 (94.2%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 総合病院、クリニック、薬局			
(就職指導内容) ・面接指導 ・SPI対策 ・インターンシップ ・就職支援授業			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・医療事務技能審査試験（17人合格）・日レセ(ORCA)オペレーター技能初級(17人合格) ・メディカルフロントコンシェルジュ（17人合格）・ドクターズクラーク（13人合格）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	23人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・保護者懇談会 ・個別ガイダンス ・三者面談 ・スクールカウンセリング ・卒業生講話 ・学科合同イベント ・クラスレクレーション大会 ・県外・離島出身者応援団		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	エアラインビジネス 科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 2,415 単位時間／単位	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年			1,428 単位時間 /単位	777 単位時間 /単位	210 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,415 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		3人	0人	2人	0人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																													
<p>(概要)</p> <p>授業計画書の作成過程について</p> <p>(1) 1月中旬までに各学科は次年度のカリキュラムを作成する。</p> <p>(2) 2月に実施するエアラインビジネス科の教育課程編成委員会で審議を図り、委員の意見やアドバイスを参考にする。</p> <p>(3) 2月末までにカリキュラムを最終決定していく。</p> <p>(4) 3月の中旬までにシラバスの作成をし、4月初旬に学生に公表する。</p> <p>(5) ホームページ等での公表は8月中に行う。</p>																													
成績評価の基準・方法																													
<p>(概要)</p> <p>※成績評価</p> <p>(1) 成績評価は履修科目ごとに、評価する。</p> <p>(2) 成績評価は、単位認定テスト、確認テスト、出席率、授業態度、その他課題等によってなされる。</p> <p>(3) 評価…成績評価は、A・B・C・D・Eの5段階とする。</p> <p>(4) 評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内 容</th> <th>点 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>科目の理解度と授業態度の優秀な者</td> <td>100～85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>科目の理解度と授業態度の良好な者</td> <td>84～70</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>科目の理解度と授業態度のやや劣る者</td> <td>69～50</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>科目の理解度と授業態度が劣る者</td> <td>49～30</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>単位を認めない者</td> <td>29～0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 評価内容（100点満点として）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(1) 試験</th> <th>(2) 出席</th> <th>(3) 授業態度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70点</td> <td>20点</td> <td>10点</td> <td>100点</td> </tr> </tbody> </table> <p>①試験点については、筆記、実技試験、レポート、製作物等の評価点数に70%乗ずる。</p> <p>②出席点については、各科目の出席率に20%を乗ずる。</p> <p>③授業態度については、各担当の講師の評価点数に10%を乗ずる。</p> <p>(6) 成績評価表 前期、中期、後期の評価表を作成する。</p>				評価	内 容	点 数	A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100～85	B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84～70	C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69～50	D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49～30	E	単位を認めない者	29～0	(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計	70点	20点	10点	100点
評価	内 容	点 数																											
A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100～85																											
B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84～70																											
C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69～50																											
D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49～30																											
E	単位を認めない者	29～0																											
(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計																										
70点	20点	10点	100点																										

(7) 単位認定試験

- ・全科目、単位認定試験を実施する。
- ・年間行事日程表で示す単位認定試験期間以前に科目が終了する場合は、終了する時点で科目単位認定試験を実施する。（対象学生は必ず受けなくてはならない）
- ・2期以上に渡る科目は、各期で単位認定を行い、その都度前の期で行った単位評価と整合を行う。
- ・指定された単位認定試験を受験しなかった場合は、理由を問わず追試対象とする。
(但し、就職に関する試験・面接日と重なった場合は、その限りではない。)

(8) 単位認定追試験

- ・追試対象者の点数は40点未満とし、追試料金が発生する。
- ・追試は2回までとし、それでも40点未満であれば、レポート提出などで最終的な成績を出す。
- ・各科目の出席率が85%未満の者は単位認定試験を受けられない。よって追試対象者となる。
ただし、科目時間数(30時間未満)によっては、出席率80%未満の者が対象となる場合がある。
- ・追試手続きは、単位認定試験申込書と受験料を添えて総務に各自で申請する。
- ・追試及び再追試の試験日は、各科目担当者が該当学生に日程を指示し、総務で申請した学生のみ受験することができる。よって、無申請の学生は、自動的に単位未取得となる。

(9) 再試験について

- ・追試とは別に基準点を設けて、再試験を設定することが出来る。再試験料金は発生しない。
- ・再試験は、その学生に対して、もっと勉強してほしいという気持ちから行うものである。

卒業・進級の認定基準

(概要)

<進級条件>

- (1) 出席率85%以上(学校行事など含む)
在籍中の出席率を集計するが、1年間の必要出席日数の85%以上が得られない者は退学対象とし、進級判定会議で決定する。
- (2) 授業料等の納付義務
授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。

<卒業条件>

- (3) 履修時間
本校在学期間中に1,700時間以上を履修しなければならない。よって1,700時間未満の者は卒業できない。(1年次卒業生は800時間以上の履修)
- (2) 卒業単位の取得
本校在籍期間中に62単位以上を取得しなくてはならない。よって62単位未満の者は、卒業できない。(1年次卒業生は32単位以上の取得)

- (3) 卒業基準検定の取得
卒業年次の2月末日までに基準検定を取得（合否結果必要）しなければならない。また、基準検定未取得者は卒業延期とする。ただし、基準検定取得時点（1年以内）で卒業を認める。
- (4) 卒業論文の提出
各科並びにコースによって異なるが、原則として学校指定の形式で4000文字以上を作成し、提出すること。
- (5) 授業料等の納付義務
授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。

学修支援等 (概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 正規授業以外に補講授業として状況に合わせて組込む。 ・ 放課後、教室を自習室として開放する。 ・ パソコン室は、授業以外は常に開放している。 ・ 担任制を導入しており、担任教員による定期的なガイダンスを行う。 ・ 学校カウンセラーによる学習面・生活面への相談体制。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ・ 電車乗務員、医局秘書、販売職			
(就職指導内容) ・ 面接指導 ・ SPI 対策 ・ インターンシップ ・ 就職支援授業			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ サービス助士（2人合格） ・ TOEIC400点以上（1人合格）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) ・		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・ 保護者懇談会 ・ 個別ガイダンス ・ 三者面談 ・ スクールカウンセリング ・ 卒業生講話 ・ 学科合同イベント ・ クラスレクレーション大会 ・ 県外・離島出身者応援団		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
商業実務		専門課程	国際リゾート観光科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 2,415 単位時間/単位		開設している授業の種類		
	昼			講義	演習	実習
2年			1,428 単位時間 /単位	777 単位時間 /単位	210 単位時間 /単位	単位時間 /単位
				単位時間/単位		
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40人		7人	0人	2人	0人	2人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																													
<p>(概要)</p> <p>授業計画書の作成過程について</p> <p>(1) 1月中旬までに各学科は次年度のカリキュラムを作成する。</p> <p>(2) 2月に実施する国際リゾート観光科の教育課程編成委員会で審議を図り、委員の意見やアドバイスを参考にする。</p> <p>(3) 2月末までにカリキュラムを最終決定していく。</p> <p>(4) 3月の中旬までにシラバスの作成をし、4月初旬に学生に公表する。</p> <p>(5) ホームページ等での公表は8月中に行う。</p>																													
成績評価の基準・方法																													
<p>(概要)</p> <p>※成績評価</p> <p>(1) 成績評価は履修科目ごとに、評価する。</p> <p>(2) 成績評価は、単位認定テスト、確認テスト、出席率、授業態度、その他課題等によってなされる。</p> <p>(3) 評価…成績評価は、A・B・C・D・Eの5段階とする。</p> <p>(4) 評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内 容</th> <th>点 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>科目の理解度と授業態度の優秀な者</td> <td>100 ~ 85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>科目の理解度と授業態度の良好な者</td> <td>84 ~ 70</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>科目の理解度と授業態度のやや劣る者</td> <td>69 ~ 50</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>科目の理解度と授業態度が劣る者</td> <td>49 ~ 30</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>単位を認めない者</td> <td>29 ~ 0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 評価内容（100点満点として）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(1) 試験</th> <th>(2) 出席</th> <th>(3) 授業態度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70点</td> <td>20点</td> <td>10点</td> <td>100点</td> </tr> </tbody> </table> <p>①試験点については、筆記、実技試験、レポート、製作物等の評価点数に70%乗ずる。</p> <p>②出席点については、各科目の出席率に20%を乗ずる。</p> <p>③授業態度については、各担当の講師の評価点数に10%を乗ずる。</p> <p>(6) 成績評価表 前期、中期、後期の評価表を作成する。</p>				評価	内 容	点 数	A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85	B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70	C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50	D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30	E	単位を認めない者	29 ~ 0	(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計	70点	20点	10点	100点
評価	内 容	点 数																											
A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85																											
B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70																											
C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50																											
D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30																											
E	単位を認めない者	29 ~ 0																											
(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計																										
70点	20点	10点	100点																										

(7) 単位認定試験

- ・全科目、単位認定試験を実施する。
- ・年間行事日程表で示す単位認定試験期間以前に科目が終了する場合は、終了する時点で科目単位認定試験を実施する。（対象学生は必ず受けなくてはならない）
- ・2期以上に渡る科目は、各期で単位認定を行い、その都度前の期で行った単位評価と整合を行う。
- ・指定された単位認定試験を受験しなかった場合は、理由を問わず追試対象とする。
(但し、就職に関する試験・面接日と重なった場合は、その限りではない。)

(8) 単位認定追試験

- ・追試対象者の点数は40点未満とし、追試料金が発生する。
- ・追試は2回までとし、それでも40点未満であれば、レポート提出などで最終的な成績を出す。
- ・各科目の出席率が85%未満の者は単位認定試験を受けられない。よって追試対象者となる。
ただし、科目時間数(30時間未満)によっては、出席率80%未満の者が対象となる場合がある。
- ・追試手続きは、単位認定試験申込書と受験料を添えて総務に各自で申請する。
- ・追試及び再追試の試験日は、各科目担当者が該当学生に日程を指示し、総務で申請した学生のみ受験することができる。よって、無申請の学生は、自動的に単位未取得となる。

(9) 再試験について

- ・追試とは別に基準点を設けて、再試験を設定することが出来る。再試験料金は発生しない。
- ・再試験は、その学生に対して、もっと勉強してほしいという気持ちから行うものである。

卒業・進級の認定基準

(概要)

<進級条件>

- (1) 出席率85%以上(学校行事など含む)
在籍中の出席率を集計するが、1年間の必要出席日数の85%以上が得られない者は退学対象とし、進級判定会議で決定する。
- (2) 授業料等の納付義務
授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。

<卒業条件>

- (4) 履修時間
本校在学期間中に1,700時間以上を履修しなければならない。よって1,700時間未満の者は卒業できない。(1年次卒業生は800時間以上の履修)
- (2) 卒業単位の取得
本校在籍期間中に62単位以上を取得しなくてはならない。よって62単位未満の者は、卒業できない。(1年次卒業生は32単位以上の取得)

<p>(3) 卒業基準検定の取得 卒業年次の2月末日までに基準検定を取得（合否結果必要）しなければならない。また、基準検定未取得者は卒業延期とする。ただし、基準検定取得時点（1年以内）で卒業を認める。</p> <p>(4) 卒業論文の提出 各科並びにコースによって異なるが、原則として学校指定の形式で4000文字以上を作成し、提出すること。</p> <p>(5) 授業料等の納付義務 授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。</p>
<p>学修支援等 (概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正規授業以外に補講授業として状況に合わせ組込む。 ・ 放課後、教室を自習室として開放する。 ・ パソコン室は、授業以外は常に開放している。 ・ 担任制を導入しており、担任教員による定期的なガイダンスを行う。 ・ 学校カウンセラーによる学習面・生活面への相談体制。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (%)	5人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) ・ ホテルスタッフ、グランドスタッフ			
(就職指導内容) ・ 面接指導 ・ SPI 対策 ・ インターンシップ ・ 就職支援授業			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ ホテルビジネス検定 5名 ・ サービス接客準1級 4名 ・ サービス介助士 4名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・ 保護者懇談会 ・ 個別ガイダンス ・ 三者面談 ・ スクールカウンセリング ・ 卒業生講話 ・ 学科合同イベント ・ クラスレクレーション大会 ・ 県外・離島出身者応援団		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	公務員ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 2,379 単位時間/単位	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年			1,935 単位時間 /単位	444 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,379 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		275人	0人	15人	2人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																													
<p>(概要)</p> <p>授業計画書の作成過程について</p> <p>(1) 1月中旬までに各学科は次年度のカリキュラムを作成する。</p> <p>(2) 2月に実施する公務員ビジネス科の教育課程編成委員会で審議を図り、委員の意見やアドバイスを参考にする。</p> <p>(3) 2月末までにカリキュラムを最終決定していく。</p> <p>(4) 3月の中旬までにシラバスの作成をし、4月初旬に学生に公表する。</p> <p>(5) ホームページ等での公表は8月中に行う。</p>																													
成績評価の基準・方法																													
<p>(概要)</p> <p>※成績評価</p> <p>(1) 成績評価は履修科目ごとに、評価する。</p> <p>(2) 成績評価は、単位認定テスト、確認テスト、出席率、授業態度、その他課題等によってなされる。</p> <p>(3) 評価…成績評価は、A・B・C・D・Eの5段階とする。</p> <p>(4) 評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内 容</th> <th>点 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>科目の理解度と授業態度の優秀な者</td> <td>100 ~ 85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>科目の理解度と授業態度の良好な者</td> <td>84 ~ 70</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>科目の理解度と授業態度のやや劣る者</td> <td>69 ~ 50</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>科目の理解度と授業態度が劣る者</td> <td>49 ~ 30</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>単位を認めない者</td> <td>29 ~ 0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 評価内容（100点満点として）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(1) 試験</th> <th>(2) 出席</th> <th>(3) 授業態度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70点</td> <td>20点</td> <td>10点</td> <td>100点</td> </tr> </tbody> </table> <p>①試験点については、筆記、実技試験、レポート、製作物等の評価点数に70%乗ずる。</p> <p>②出席点については、各科目の出席率に20%を乗ずる。</p> <p>③授業態度については、各担当の講師の評価点数に10%を乗ずる。</p> <p>(6) 成績評価表 前期、中期、後期の評価表を作成する。</p>				評価	内 容	点 数	A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85	B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70	C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50	D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30	E	単位を認めない者	29 ~ 0	(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計	70点	20点	10点	100点
評価	内 容	点 数																											
A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85																											
B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70																											
C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50																											
D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30																											
E	単位を認めない者	29 ~ 0																											
(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計																										
70点	20点	10点	100点																										

(7) 単位認定試験

- ・全科目、単位認定試験を実施する。
- ・年間行事日程表で示す単位認定試験期間以前に科目が終了する場合は、終了する時点で科目単位認定試験を実施する。（対象学生は必ず受けなくてはならない）
- ・2期以上に渡る科目は、各期で単位認定を行い、その都度前の期で行った単位評価と整合を行う。
- ・指定された単位認定試験を受験しなかった場合は、理由を問わず追試対象とする。
(但し、就職に関する試験・面接日と重なった場合は、その限りではない。)

(8) 単位認定追試

- ・追試対象者の点数は40点未満とし、追試料金が発生する。
- ・追試は2回までとし、それでも40点未満であれば、レポート提出などで最終的な成績を出す。
- ・各科目の出席率が85%未満の者は単位認定試験を受けられない。よって追試対象者となる。
ただし、科目時間数(30時間未満)によっては、出席率80%未満の者が対象となる場合がある。
- ・追試手続きは、単位認定試験申込書と受験料を添えて総務に各自で申請する。
- ・追試及び再追試の試験日は、各科目担当者が該当学生に日程を指示し、総務で申請した学生のみ受験することができる。よって、無申請の学生は、自動的に単位未取得となる。

(9) 再試験について

- ・追試とは別に基準点を設けて、再試験を設定することが出来る。再試験料金は発生しない。
- ・再試験は、その学生に対して、もっと勉強してほしいという気持ちから行うものである。

卒業・進級の認定基準

(概要)

<進級条件>

- (1) 出席率85%以上(学校行事など含む)
在籍中の出席率を集計するが、1年間の必要出席日数の85%以上が得られない者は退学対象とし、進級判定会議で決定する。
- (2) 授業料等の納付義務
授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。

<卒業条件>

- (5) 履修時間
本校在学期間中に1,700時間以上を履修しなければならない。よって1,700時間未満の者は卒業できない。(1年次卒業生は800時間以上の履修)
- (2) 卒業単位の取得
本校在籍期間中に62単位以上を取得しなくてはならない。よって62単位未満の者は、卒業できない。(1年次卒業生は32単位以上の取得)

<p>(3) 卒業基準検定の取得 卒業年次の2月末日までに基準検定を取得（合否結果必要）しなければならない。また、基準検定未取得者は卒業延期とする。ただし、基準検定取得時点（1年以内）で卒業を認める。</p> <p>(4) 卒業論文の提出 各科並びにコースによって異なるが、原則として学校指定の形式で4000文字以上を作成し、提出すること。</p> <p>(5) 授業料等の納付義務 授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。</p>
<p>学修支援等 (概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正規授業以外に補講授業として状況に合わせて組込む。 ・ 放課後、教室を自習室として開放する。 ・ パソコン室は、授業以外は常に開放している。 ・ 担任制を導入しており、担任教員による定期的なガイダンスを行う。 ・ 学校カウンセラーによる学習面・生活面への相談体制。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
135人 (100%)	12人 (8.8%)	122人 (90.3%)	1人 (0.7%)
(主な就職、業界等) ・ 国家公務員、地方公務員、小売業、建設業			
(就職指導内容) ・ 公務員筆記試験対策 ・ 面接指導 ・ SPI対策 ・ 就職支援授業			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ ジョブパス検定3級（110人合格） ・ ビジネス文書検定3級（104人合格） ・ 数学検定2・3級（103人合格）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
275人	18人	6.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習に対するモチベーションの低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・ 保護者懇談会 ・ 個別ガイダンス ・ 三者面談 ・ スクールカウンセリング ・ 卒業生講話 ・ 学科合同イベント ・ クラスレクレーション大会 ・ 県外・離島出身者応援団		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	公務員速成科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,212 単位時間/単位	863 単位時間 /単位	349 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,212 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		22人	0人	15人	2人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																													
<p>(概要)</p> <p>授業計画書の作成過程について</p> <p>(1) 1月中旬までに各学科は次年度のカリキュラムを作成する。</p> <p>(2) 2月に実施する公務員ビジネス科の教育課程編成委員会で審議を図り、委員の意見やアドバイスを参考にする。</p> <p>(3) 2月末までにカリキュラムを最終決定していく。</p> <p>(4) 3月の中旬までにシラバスの作成をし、4月初旬に学生に公表する。</p> <p>(5) ホームページ等での公表は8月中に行う。</p>																													
成績評価の基準・方法																													
<p>(概要)</p> <p>※成績評価</p> <p>(1) 成績評価は履修科目ごとに、評価する。</p> <p>(2) 成績評価は、単位認定テスト、確認テスト、出席率、授業態度、その他課題等によってなされる。</p> <p>(3) 評価…成績評価は、A・B・C・D・Eの5段階とする。</p> <p>(4) 評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内 容</th> <th>点 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>科目の理解度と授業態度の優秀な者</td> <td>100 ~ 85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>科目の理解度と授業態度の良好な者</td> <td>84 ~ 70</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>科目の理解度と授業態度のやや劣る者</td> <td>69 ~ 50</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>科目の理解度と授業態度が劣る者</td> <td>49 ~ 30</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>単位を認めない者</td> <td>29 ~ 0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 評価内容（100点満点として）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(1) 試験</th> <th>(2) 出席</th> <th>(3) 授業態度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70点</td> <td>20点</td> <td>10点</td> <td>100点</td> </tr> </tbody> </table> <p>①試験点については、筆記、実技試験、レポート、製作物等の評価点数に70%乗ずる。</p> <p>②出席点については、各科目の出席率に20%を乗ずる。</p> <p>③授業態度については、各担当の講師の評価点数に10%を乗ずる。</p> <p>(6) 成績評価表 前期、中期、後期の評価表を作成する。</p>				評価	内 容	点 数	A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85	B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70	C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50	D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30	E	単位を認めない者	29 ~ 0	(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計	70点	20点	10点	100点
評価	内 容	点 数																											
A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85																											
B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70																											
C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50																											
D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30																											
E	単位を認めない者	29 ~ 0																											
(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計																										
70点	20点	10点	100点																										

(7) 単位認定試験

- ・全科目、単位認定試験を実施する。
- ・年間行事日程表で示す単位認定試験期間以前に科目が終了する場合は、終了する時点で科目単位認定試験を実施する。（対象学生は必ず受けなくてはならない）
- ・2期以上に渡る科目は、各期で単位認定を行い、その都度前の期で行った単位評価と整合を行う。
- ・指定された単位認定試験を受験しなかった場合は、理由を問わず追試対象とする。
(但し、就職に関する試験・面接日と重なった場合は、その限りではない。)

(8) 単位認定追試験

- ・追試対象者の点数は40点未満とし、追試料金が発生する。
- ・追試は2回までとし、それでも40点未満であれば、レポート提出などで最終的な成績を出す。
- ・各科目の出席率が85%未満の者は単位認定試験を受けられない。よって追試対象者となる。
ただし、科目時間数(30時間未満)によっては、出席率80%未満の者が対象となる場合がある。
- ・追試手続きは、単位認定試験申込書と受験料を添えて総務に各自で申請する。
- ・追試及び再追試の試験日は、各科目担当者が該当学生に日程を指示し、総務で申請した学生のみ受験することができる。よって、無申請の学生は、自動的に単位未取得となる。

(9) 再試験について

- ・追試とは別に基準点を設けて、再試験を設定することが出来る。再試験料金は発生しない。
- ・再試験は、その学生に対して、もっと勉強してほしいという気持ちから行うものである。

卒業・進級の認定基準

(概要)

<卒業条件>

(1) 履修時間

本校在学期間中に1,700時間以上を履修しなければならない。よって1,700時間未満の者は卒業できない。(1年次卒業生は800時間以上の履修)

(2) 卒業単位の取得

本校在籍期間中に62単位以上を取得しなくてはならない。よって62単位未満の者は、卒業できない。(1年次卒業生は32単位以上の取得)

(3) 卒業基準検定の取得

卒業年次の2月末日までに基準検定を取得(合否結果必要)しなければならない。また、基準検定未取得者は卒業延期とする。ただし、基準検定取得時点(1年以内)で卒業を認める。

(4) 卒業論文の提出

各科並びにコースによって異なるが、原則として学校指定の形式で4000文字以上を作成し、提出すること。

<p>(5) 授業料等の納付義務 授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正規授業以外に補講授業として状況に合わせ組込む。 ・ 放課後、教室を自習室として開放する。 ・ パソコン室は、授業以外は常に開放している。 ・ 担任制を導入しており、担任教員による定期的なガイダンスを行う。 ・ 学校カウンセラーによる学習面・生活面への相談体制。

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	2人 (9.5%)	14人 (67%)	5人 (23.5%)
<p>(主な就職、業界等) 国家公務員、地方公務員</p>			
<p>(就職指導内容) ・ 公務員筆記試験対策 ・ 面接指導 ・ SPI 対策 ・ 就職支援授業</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）) ・ ビジネス文書検定3級（17人合格） ・ 全経簿記検定3級（11人合格）</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

<p>中途退学の現状</p>		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%
<p>(中途退学の主な理由) モチベーション低下1人</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) ・ 保護者懇談会 ・ 個別ガイダンス ・ 三者面談 ・ スクールカウンセリング ・ 卒業生講話 ・ 学科合同イベント ・ クラスレクレーション大会 ・ 県外・離島出身者応援団</p>		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	国際英米学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 2,249 単位時間/単位		開設している授業の種類		
	昼			講義	演習	実習
2年			1,299 単位時間 /単位	790 単位時間 /単位	160 単位時間 /単位	単位時間 /単位
		単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40人		23人	0人	2人	0人	2人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																													
<p>(概要)</p> <p>授業計画書の作成過程について</p> <p>(1) 1月中旬までに各学科は次年度のカリキュラムを作成する。</p> <p>(2) 2月に実施する国際英米学科の教育課程編成委員会で審議を図り、委員の意見やアドバイスを参考にする。</p> <p>(3) 2月末までにカリキュラムを最終決定していく。</p> <p>(4) 3月の中旬までにシラバスの作成をし、4月初旬に学生に公表する。</p> <p>(5) ホームページ等での公表は8月中に行う。</p>																													
成績評価の基準・方法																													
<p>(概要)</p> <p>※成績評価</p> <p>(1) 成績評価は履修科目ごとに、評価する。</p> <p>(2) 成績評価は、単位認定テスト、確認テスト、出席率、授業態度、その他課題等によってなされる。</p> <p>(3) 評価…成績評価は、A・B・C・D・Eの5段階とする。</p> <p>(4) 評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内 容</th> <th>点 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>科目の理解度と授業態度の優秀な者</td> <td>100 ~ 85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>科目の理解度と授業態度の良好な者</td> <td>84 ~ 70</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>科目の理解度と授業態度のやや劣る者</td> <td>69 ~ 50</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>科目の理解度と授業態度が劣る者</td> <td>49 ~ 30</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>単位を認めない者</td> <td>29 ~ 0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 評価内容（100点満点として）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(1) 試験</th> <th>(2) 出席</th> <th>(3) 授業態度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70点</td> <td>20点</td> <td>10点</td> <td>100点</td> </tr> </tbody> </table> <p>①試験点については、筆記、実技試験、レポート、製作物等の評価点数に70%乗ずる。</p> <p>②出席点については、各科目の出席率に20%を乗ずる。</p> <p>③授業態度については、各担当の講師の評価点数に10%を乗ずる。</p> <p>(6) 成績評価表 前期、中期、後期の評価表を作成する。</p>				評価	内 容	点 数	A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85	B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70	C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50	D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30	E	単位を認めない者	29 ~ 0	(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計	70点	20点	10点	100点
評価	内 容	点 数																											
A	科目の理解度と授業態度の優秀な者	100 ~ 85																											
B	科目の理解度と授業態度の良好な者	84 ~ 70																											
C	科目の理解度と授業態度のやや劣る者	69 ~ 50																											
D	科目の理解度と授業態度が劣る者	49 ~ 30																											
E	単位を認めない者	29 ~ 0																											
(1) 試験	(2) 出席	(3) 授業態度	計																										
70点	20点	10点	100点																										

(7) 単位認定試験

- ・全科目、単位認定試験を実施する。
- ・年間行事日程表で示す単位認定試験期間以前に科目が終了する場合は、終了する時点で科目単位認定試験を実施する。（対象学生は必ず受けなくてはならない）
- ・2期以上に渡る科目は、各期で単位認定を行い、その都度前の期で行った単位評価と整合を行う。
- ・指定された単位認定試験を受験しなかった場合は、理由を問わず追試対象とする。
(但し、就職に関する試験・面接日と重なった場合は、その限りではない。)

(8) 単位認定追試験

- ・追試対象者の点数は40点未満とし、追試料金が発生する。
- ・追試は2回までとし、それでも40点未満であれば、レポート提出などで最終的な成績を出す。
- ・各科目の出席率が85%未満の者は単位認定試験を受けられない。よって追試対象者となる。
ただし、科目時間数(30時間未満)によっては、出席率80%未満の者が対象となる場合がある。
- ・追試手続きは、単位認定試験申込書と受験料を添えて総務に各自で申請する。
- ・追試及び再追試の試験日は、各科目担当者が該当学生に日程を指示し、総務で申請した学生のみ受験することができる。よって、無申請の学生は、自動的に単位未取得となる。

(9) 再試験について

- ・追試とは別に基準点を設けて、再試験を設定することが出来る。再試験料金は発生しない。
- ・再試験は、その学生に対して、もっと勉強してほしいという気持ちから行うものである。

卒業・進級の認定基準

(概要)

<進級条件>

- (1) 出席率85%以上(学校行事など含む)
在籍中の出席率を集計するが、1年間の必要出席日数の85%以上が得られない者は退学対象とし、進級判定会議で決定する。
- (2) 授業料等の納付義務
授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。

<卒業条件>

- (6) 履修時間
本校在学期間中に1,700時間以上を履修しなければならない。よって1,700時間未満の者は卒業できない。(1年次卒業生は800時間以上の履修)
- (2) 卒業単位の取得
本校在籍期間中に62単位以上を取得しなくてはならない。よって62単位未満の者は、卒業できない。(1年次卒業生は32単位以上の取得)

- (3) 卒業基準検定の取得
卒業年次の2月末日までに基準検定を取得（合否結果必要）しなければならない。また、基準検定未取得者は卒業延期とする。ただし、基準検定取得時点（1年以内）で卒業を認める。
- (4) 卒業論文の提出
各科並びにコースによって異なるが、原則として学校指定の形式で4000文字以上を作成し、提出すること。
- (5) 授業料等の納付義務
授業料等の未納者が、指定期日までに納付義務を怠った場合、退学となる場合がある。

学修支援等

(概要)

- ・ 正規授業以外に補講授業として状況に合わせ組込む。
- ・ 放課後、教室を自習室として開放する。
- ・ パソコン室は、授業以外は常に開放している。
- ・ 担任制を導入しており、担任教員による定期的なガイダンスを行う。
- ・ 学校カウンセラーによる学習面・生活面への相談体制。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (63%)	5人 (45%)	2人 (18%)	4人 (37%)
(主な就職、業界等) 金融機関、教育、IT、ホテル			
(就職指導内容) ・面接指導 ・SPI対策 ・インターンシップ ・就職支援授業			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・TOEIC500点以上（7人） ・英検2級（5人合格）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	4人	17.3%
(中途退学の主な理由) ・進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・保護者懇談会 ・個別ガイダンス ・三者面談 ・スクールカウンセリング ・卒業生講話 ・学科合同イベント ・クラスレクレーション大会 ・県外・離島出身者応援団		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
キャリアビジネス科	100,000 円	680,000 円	178,732 円	
メディカルスタッフビジネス科	100,000 円	680,000 円	180,082 円	
エアラインビジネス科	100,000 円	680,000 円	191,062 円	
国際リゾート観光科	100,000 円	680,000 円	182,232 円	
公務員ビジネス科	100,000 円	680,000 円	123,282 円	
公務員速成科	100,000 円	680,000 円	277,162 円	
国際英米学科	100,000 円	820,000 円	218,582 円	
修学支援 (任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次優秀学生表彰制度 ・ 兄弟姉妹入学金免除制度 ・ 親子二世代学費免除制度 ・ 日経教育グループ学費免除制度 				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.n-nikkei.ac.jp/info/disclosure_nikkei.html
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校は、教育の一層の充実を図り、目的及び社会的使命を達成するために自己点検項目として、学校運営・教育活動・学習成果等の状況についての評価を行い、その結果を公表するものとする。 また、自己評価結果を踏まえ、当校の関係者等による「学校関係者評価委員会」を開催し、その結果を教育活動等に活用するとともに公表するものとする。 「学校関係者評価委員会」の体制として、現在は企業側関係者が 3 名、元高等学校校長が 3 名の外部委員 6 名で構成しており、任期は 2 年間である。 その「学校関係者評価委員」の評価結果をもとに、学校運営会議や各学科会議で確認・検討し、次年度の教育課程の活動に反映していく。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
税理士法人砂川会計パートナーズ 代表社員	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年間)	企業側関係者
国立大学法人琉球大学 大学院教育学研究科 教授	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年間)	元高等学校校長
株式会社 PHG 琉球マネジメント 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年間)	企業側関係者
那覇空港ビルディング株式会社 専務取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年間)	企業側関係者
一般社団法人 沖縄県専修学校各種学校協会 事務局長	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年間)	元高等学校校長
南風原町大名公民館 区長	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年間)	元高等学校校長
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://www.n-nikkei.ac.jp/info/disclosure_nikkei.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://www.n-nikkei.ac.jp/